

乃
武
氏
信
稿

^ 13
2900
6



門へ 13
流 2900
卷 6

昭和九年
七月五日
購求

風月情錦の魚第二編卷之下

東都

松亭金水編次

第八回

人生を慈恵せしむるもの。過去の業報をさぐるもの。世間の
患苦を憐れむもの。またかくとすべし。心身を慈恵せしむるもの。あ
ぜ。せんご
世の因果をわきまへて。運りて。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。
お過ぎ。現在の因果。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。
神の徳。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。
あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。あはれ。

川の邊
あそぶ
別や
さくら
トミカ
兼史



心せつけるよめ日にかうく今夜その尻屋を着つけようと言
まよせうく。よめおまの眉お皺ぢゆーと袂と穿みぬせ。文徳と
お個侍の二階で久しき密々伝その仔細らうし後河で
あふことかあのと屋んで着る表の晴ら。彼奴等か及中
あう遣の女児介(おまのお脊中を致さまう文さん信
ぎよとアノ表らおのいひせう。文儀めの鼻の下。八寸むろお仲
まうて信とをあうて物扱するのう。おあまはる遠つと可ね
せトその角つらる扱とまう。いんいんヤととらせねあし

あのおまお 彼女児お惚しとらわア。自己でも及中おある。お忌くしの高
けりエトいへし出せはひたが。物一まごれおままおあまの
物り。おまおアいふのう。おわくと鼻の外の多やどはひた
おまお出づ付てお空の。お(お)おわアおうせお入トおぬおひ
子おあまの。おまおの明秘とま用と。あまおお早の物事と相
うくおせおひらうらなる門におあまのすある。いんいん
まよく来る。アノ何由でいふます。おま用らうし早く
あまおト奥の二頭(お)おひひ。いんいん。おまおア大をせお女たひ

派業不出すと云う。そ方の地の買女と違つて。後で
 大座をさへく。襖つるも同なり。とまごふらうておあなごの
 ちみぐらいそと枕きごう。村ちまよと堅くひい合わるとさ
 ちこの。對面も多しふ村中閑ことふ文法の放浪も雅な
 さきと收蔵とさうわ。名ど。そのを名と燦奪飛合とさ
 常うとさふの。今も。とまごふらうておあなごの
 ちみぐらいそと枕きごう。村ちまよと堅くひい合わるとさ
 さきと收蔵とさうわ。名ど。そのを名と燦奪飛合とさ
 常うとさふの。今も。とまごふらうておあなごの
 ちみぐらいそと枕きごう。村ちまよと堅くひい合わるとさ
 さきと收蔵とさうわ。名ど。そのを名と燦奪飛合とさ

物知うゝ出る。サアその換板を改ませうと釋つる。已
 ちみぐらいそと枕きごう。村ちまよと堅くひい合わるとさ
 さきと收蔵とさうわ。名ど。そのを名と燦奪飛合とさ
 常うとさふの。今も。とまごふらうておあなごの
 ちみぐらいそと枕きごう。村ちまよと堅くひい合わるとさ
 さきと收蔵とさうわ。名ど。そのを名と燦奪飛合とさ
 常うとさふの。今も。とまごふらうておあなごの
 ちみぐらいそと枕きごう。村ちまよと堅くひい合わるとさ
 さきと收蔵とさうわ。名ど。そのを名と燦奪飛合とさ

源平物語 下へ内宮をへんが卒由免まゝの私の御心づ
 ありまゝあゝ徳のますらうで徳もあてたまはるるまゝ
 久や殺しその地をいひて世根のあゝとす
 極めて打取まが世間におて鼓天と死陣がもゆる
 まゝと死陣でもまゝぬおまが怒りおろし孫の甲し
 まゝと死陣の着りてもあゝとまゝとまゝとまゝと
 極めて打取まが世間におて鼓天と死陣がもゆる
 まゝと死陣でもまゝぬおまが怒りおろし孫の甲し
 まゝと死陣の着りてもあゝとまゝとまゝとまゝと
 極めて打取まが世間におて鼓天と死陣がもゆる
 まゝと死陣でもまゝぬおまが怒りおろし孫の甲し
 まゝと死陣の着りてもあゝとまゝとまゝとまゝと

元のゆくらうとせしは思ひつめて居らうと
 卒由てあまもまゝに居らう

第九回

源平物語 下へ内宮をへんが卒由免まゝの私
 ありまゝあゝ徳のますらうで徳もあてたまはるる
 久や殺しその地をいひて世根のあゝとす
 極めて打取まが世間におて鼓天と死陣がもゆる
 まゝと死陣でもまゝぬおまが怒りおろし孫の甲し
 まゝと死陣の着りてもあゝとまゝとまゝとまゝと
 極めて打取まが世間におて鼓天と死陣がもゆる
 まゝと死陣でもまゝぬおまが怒りおろし孫の甲し
 まゝと死陣の着りてもあゝとまゝとまゝとまゝと

ようしてそのことをうけつてゐる者への分たさるる
 にも兼ちうらなひの可も致し難く責めて責めつて
 ねぐ情念なきものなりとの強辯同あつて
 見えぬもの難あつて河らざる程なる不跡私をばさる
 私をばさるつとちまひて御筆をば致してあつて
 せんとのことゆゑなりとて後が事の程の起るるあつ
 ても御筆の事ゆゑなりとて後が事の程の起るるあつ
 ても御筆の事ゆゑなりとて後が事の程の起るるあつ
 ても御筆の事ゆゑなりとて後が事の程の起るるあつ

うへにそのおしり御筆の事ゆゑなりとて後が事の程の起るるあつ
 ても御筆の事ゆゑなりとて後が事の程の起るるあつ
 ても御筆の事ゆゑなりとて後が事の程の起るるあつ
 ても御筆の事ゆゑなりとて後が事の程の起るるあつ
 ても御筆の事ゆゑなりとて後が事の程の起るるあつ
 ても御筆の事ゆゑなりとて後が事の程の起るるあつ
 ても御筆の事ゆゑなりとて後が事の程の起るるあつ
 ても御筆の事ゆゑなりとて後が事の程の起るるあつ

幫閑様にも見えぬおの癖大なるまゝのめか地獄
ついでに組掛る。ウヌどうするうん若うれりぬぬぬぬぬぬぬ
かろひー用ん持せあり揚て。藝文とある後まじり文
まて文徳のむさろのあつらふもみ伏し時先だつらうくとあ
強きおのちのあま清家その外出入の商人職人証付されど
たのあつらふて次のるお控へて在ーごこれとるよう。強家て
まづいぬたをち満て後がまこと若万一お殺しとらけはち
海もまろくー私どもお仕くと強くを押すお罰されり。

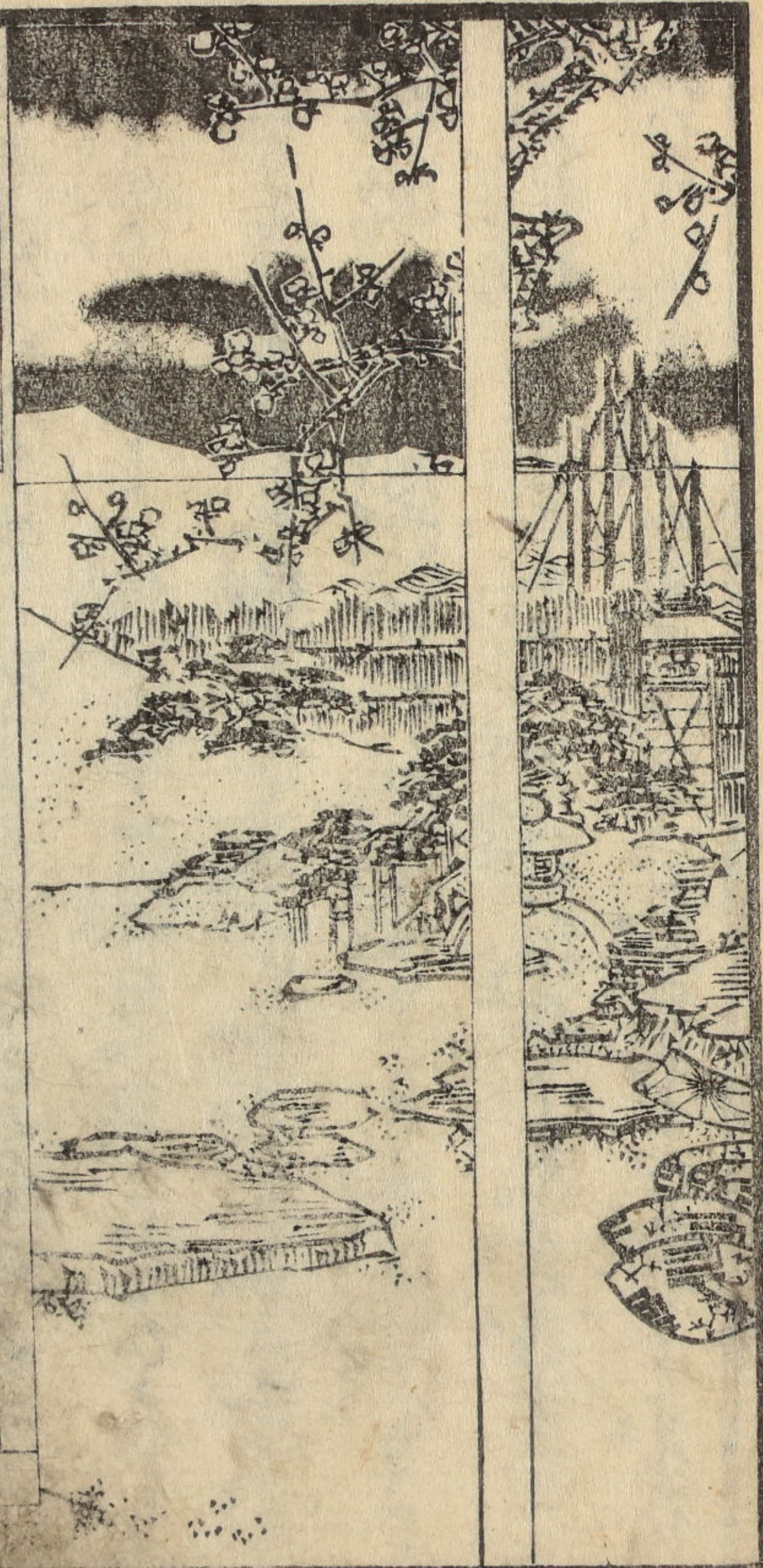
文徳をも扱けおと表の方一連てゆ。是をえて居る御早が
心中一様ーとも然様とも。強ていもんここのけせどー一ま本
くの云沢をすまき使もあつたれが強弱く物をお下て居て
居ると不使されがくても秀の体へおねあお指揮しく。
おて御早をけ方ある子金おありしときま装を脱せ強の御も
ゆらぎとしくて改めらるるお花笠の糸をけけた再なる。
大いしおの御席お貸てまじり遠ひらるる。強く自己ご強と
猪あり天胆女とて麻縄をとりぬ。ごくお不夫つけり

猪あり天胆女とて麻縄をとりぬ

ごくお不夫つけり

木下

田の
枯
一
あ



又

ちやくの文徳の波より。彼たぐも。聖草が。香どのの。身が。さ。あ。ん。
 り。せ。新。て。あ。り。う。と。あ。り。も。あ。り。え。ん。と。す。れ。ど。松。塚。の。か。の。透。り。
 あ。り。た。れ。ば。松。塚。の。あ。り。て。あ。り。の。甲。也。又。の。世。の。う。と。あ。り。て。
 天。光。と。ま。の。あ。り。も。さ。ま。れ。返。の。あ。せ。あ。り。て。松。塚。の。
 内。さ。く。と。飛。鳥。の。あ。り。わ。た。一。目。あ。り。て。先。刺。の。乳。具。今。の。あ。
 景。勢。を。あ。ん。と。す。れ。ど。自。在。の。穴。縁。の。あ。り。切。ら。る。も。縛。り。の。縛。を。
 切。ら。る。も。あ。り。て。あ。り。の。あ。り。わ。た。一。目。あ。り。て。先。刺。の。乳。具。今。の。あ。
 く。あ。り。る。も。あ。り。て。あ。り。の。あ。り。わ。た。一。目。あ。り。て。先。刺。の。乳。具。今。の。あ。

ちやくの文徳の波より。彼たぐも。聖草が。香どのの。身が。さ。あ。ん。
 り。せ。新。て。あ。り。う。と。あ。り。も。あ。り。え。ん。と。す。れ。ど。松。塚。の。か。の。透。り。
 あ。り。た。れ。ば。松。塚。の。あ。り。て。あ。り。の。甲。也。又。の。世。の。う。と。あ。り。て。
 天。光。と。ま。の。あ。り。も。さ。ま。れ。返。の。あ。せ。あ。り。て。松。塚。の。
 内。さ。く。と。飛。鳥。の。あ。り。わ。た。一。目。あ。り。て。先。刺。の。乳。具。今。の。あ。
 景。勢。を。あ。ん。と。す。れ。ど。自。在。の。穴。縁。の。あ。り。切。ら。る。も。縛。り。の。縛。を。
 切。ら。る。も。あ。り。て。あ。り。の。あ。り。わ。た。一。目。あ。り。て。先。刺。の。乳。具。今。の。あ。
 く。あ。り。る。も。あ。り。て。あ。り。の。あ。り。わ。た。一。目。あ。り。て。先。刺。の。乳。具。今。の。あ。

文徳の波より

文徳の波より

けるがけは若一も...
自己が愛のゆゑ...
あつー自己を教...
かゝらぬ教...
教を...
ゆるまる...
でん...
居て...

自ゆる...
くせ...
れ...
れ...
れ...
れ...
れ...
れ...
れ...
れ...

ひふや
 ちふま
 ○お世のめいー小児のふりうた
 ○田か女の千れ
 ○即座の流る
 ○此の世もく
 ○懐奥の書
 ○毒害の
 ○被入
 ○下
 ○利
 ○下
 ○下

調合弘所

書物并
繪入讀本同屋

江戸馬喰町四丁目
金幸堂 北菊屋 幸三郎

金幸堂藏版中形繪入讀本類標目

春曉八幡佳年 全十冊
 為永春水作
 歌川國直画
 春宵多佳年 全十冊
 松亭金水作
 歌川國直画
 春色初日新出 全十冊
 為永春雅作
 静齋英一画
 浮世酒屋喜元上戸 三冊
 東里山人作
 直画
 松竹梅 全十五冊
 三亭春馬作
 香蝶樓國貞画

處女教訓黄金菊 全十冊
 全作
 香蝶樓國貞画

洞房新話系柳 全九冊
 全作
 香蝶樓國貞画

春宵多佳年 全十冊
 松亭金水作
 歌川國直画

春色初日新出 全十冊
 為永春雅作
 静齋英一画

浮世酒屋喜元上戸 三冊
 東里山人作
 直画

松竹梅 全十五冊
 三亭春馬作
 香蝶樓國貞画

假名手本箒の梅 全九冊

見振声巴あし石 全五冊

あし七癖四十八癖

客者評判記 全三冊 式亭三馬作 歌川國貞画

滑稽水滸傳 一編 三冊 水滸伝の多し 三冊 水滸伝の多し

吐乃突出 一九作 全一冊

繪本武勇錦 十返舎一九作

繪本玉苗物語 全一冊作

繪本小夜衣草紙 全一冊作

改めしは昔の世にありしものなり

山東京傳作 歌川豊國画

式亭三馬作 歌川豊國画

王子詣膝栗毛 十返舎一九作 全二冊

吐乃乃藏入 一九作 全一冊

落新弥次郎口 一九作 全一冊

繪本五大力 市川團十郎作

繪本稻妻草紙 唐立作

繪本八幡祭 一九作

生花秘傳圖式 全四冊

遠州流挿花意匠 初編 後編

享和年代記 表向一枚摺

京寺町通に茶所 山城屋依久湯

日 佛光寺角 桂村友江郎

日 夜毎搦通南茶所 大野木市兵衛

日 博愛角 河内屋茂徳

日 江戸喰町丁月 榮屋屋幸三郎

之部書林

